

## 令和元（2019）年度資源評価調査報告書

種名	マルソウダ	対象水域	高知県海域
都道府県名	高知県	担当機関名	高知県水産試験場

## 1. 調査の概要

- ・ 主要漁業の漁獲量データ収集（曳縄・定置網）とCPUE算出（曳縄）
- ・ 尾叉長測定及び精密測定

## 2. 漁業の概要

- ・ 高知県では主に定置網及び西部の曳縄によって漁獲される。
- ・ 曳縄では11～6月に、定置網では5～6月にまとまった漁獲がある（図1、2）。
- ・ 曳縄では、魚価の暴落防止のため、操業終了時刻及び漁獲制限を漁業者自ら設定している。操業終了時刻は16時、漁獲制限は1.5～2.0トンで設定される。

## 3. 生物学的特性

- ・ 冬に南シナ海で生まれる系群、夏に日本近海で生まれる系群がある。
- ・ 尾叉長は、生後45日で18.0cm、0.5歳で25.0cm、1歳で29.0cm、1.5歳で33.5cm、2歳で35.5cm、2.5歳で37.0cmに成長し、寿命は3歳未満である。
- ・ 2017年～2019年に漁獲された個体の尾叉長は18.1cm～39.8cmで、主体は月によって変化した（図3）。6月と8月で組成が大きく異なったのは、小型魚が新規加入したためと考えられる。
- ・ 尾叉長(x)と体重(y)の関係は $y=0.0018x^{3.6566}$ であった（図4）。
- ・ 高知県周辺での産卵期は6～7月で、主に1～1.5歳が産卵を行う。
- ・ 生殖腺指数（GSI）は6月に最も増加し、その後急激に減少した（図5）。

## 4. 資源状態

- ・ 県西部の曳縄2地点による漁獲量は、1980年代までは増加し、1995年に12,000トンを超えるピークを迎えたが、2001年以降は減少傾向で推移している（図6）。2019年の漁獲量は2,265トンで、前年比53.0%、平年（2013～2017年の平均）比66.4%だった。7～12月の漁獲量は、1975年以降最低の3トンだった。
- ・ 県内の定置6地点による2019年の漁獲量は744トンで（図7）、前年比146.9%、平年比47.6%だった。
- ・ マルソウダの漁獲量は黒潮の離接岸や水温によって変動するほか（林 2014、梶 2015）、生息域が広範囲にわたる回遊魚であることから（Collette and Nauen 1983）、資源水準や動向の推測は現状では困難と考えられる。
- ・ 定置網及び曳縄の漁獲量が減少していることから、近年の来遊量は減少している可能性がある。

## 5. 資源回復に関するコメント

- ・ 環境による影響を考慮し、資源水準の動向について注視していく必要がある。

## 引用文献

- 高知県水産試験場（2017） 高知県海域における漁海況と主要魚種の資源生態. 29-30.  
 林 芳弘（2014） 室戸岬沿岸の大型定置網におけるマルソウダの漁獲状況. 黒潮の資源海洋研究, (15), 63-70.  
 梶 達也（2015） 高知県海域におけるマルソウダ漁況の変動と気候のレジームシフト. 黒潮の資源海洋研究, (16), 65-73.  
 Collette and Nauen (1983) Scombrids of the world. An annotated and illustrated catalogue of

tunas, mackerels, bonitos, and related species known to date. FAO species catalogue, 2, FAO Fisheries Synopsis, 137pp.

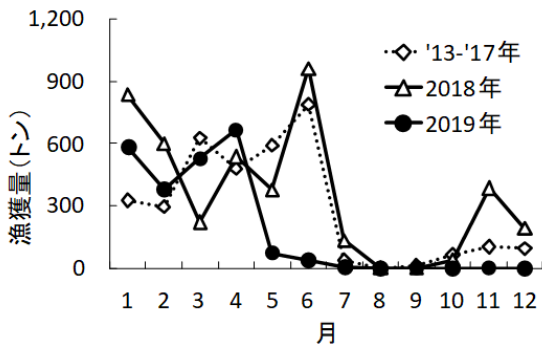


図1 西部曳縄（2地点）の月別漁獲量

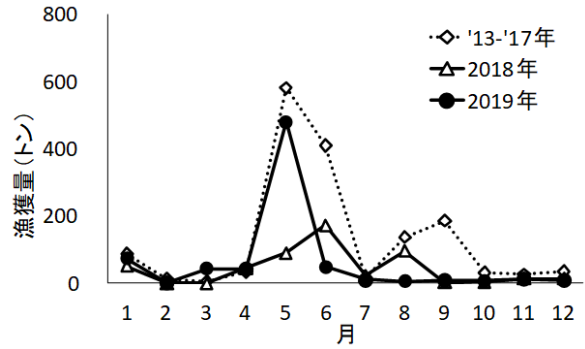


図2 県内定置網（6地点）の月別漁獲量

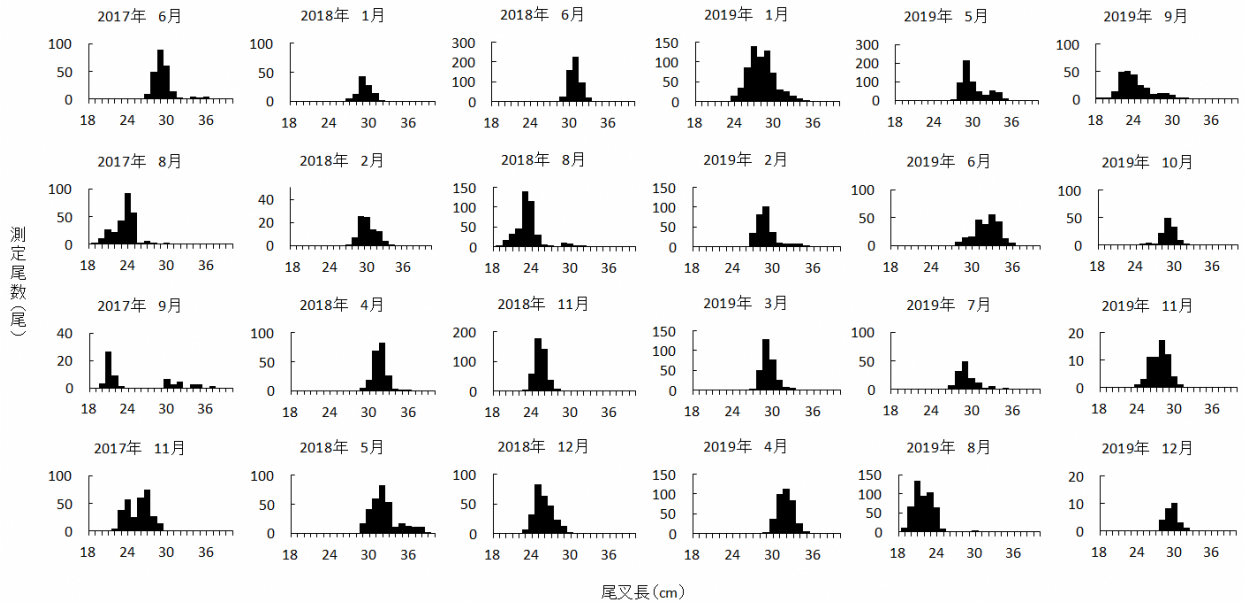


図3 尾叉長組成

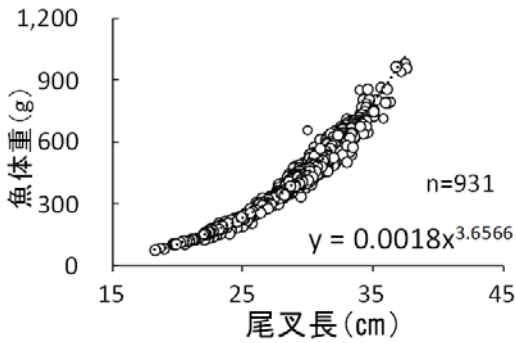


図4 尾叉長と体重の関係（'17-'19年）

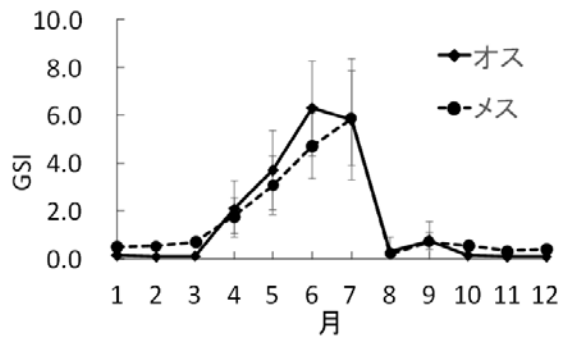


図5 生殖腺指数の推移（'17-'19年）

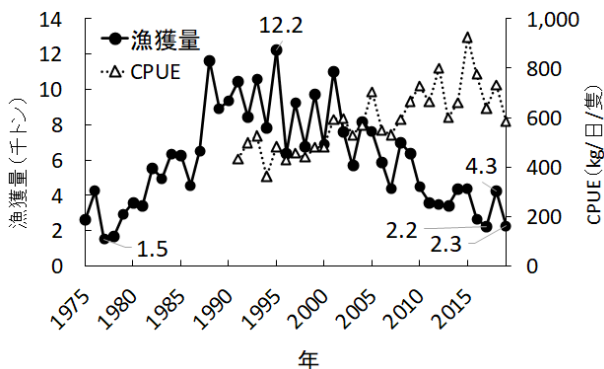


図6 西部曳縄（2地点）の漁獲量とCPUE

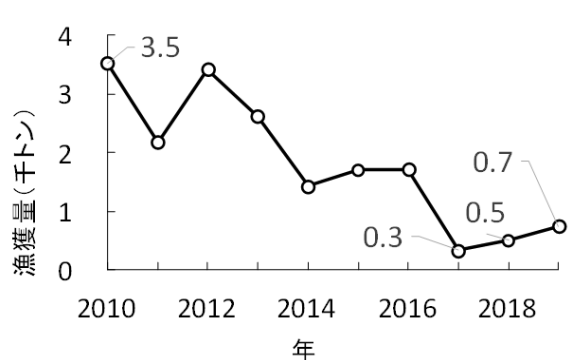


図7 県内定置網（6地点）の漁獲量